

ゆう気をもつてがんばったよ

小三

これは、わたしが見ていたAさんのお話です。

一年生のころ、Bさんたちは、休み時間ごとにろう下に集まって、話し合いをしていました。そのメンバーは三人です。Aさんのことをなかまはずれにしたり、悪口を言ったりしていました。なかよしのときもあつたけれど、だんだんAさんがなんだかかわいそうに思えてきました。それを見ていたわたしは、Aさんに声をかけました。「何かいやなことでもあつたの。」でも、Aさんは、

「何でもないからだいじょうぶだよ。」
と言っていました。わたしには、だいじょうぶそうには見えませんでした。心の中で心配でした。心配になって、Aさんのことが気になって仕方ありませんでした。

わたしが、Aさんのことを助けようとする、意地悪をしていた友だちが来て、

「何でもないからあっち行って。」
とか、

「かんけいなしでしょ。」
と言われて、毎日話をするのができませんでした。わたしは、とても心配になりました。

一週間たつて、Aさんを見かけると、Aさんは、校庭を一人で歩いていまし

た。顔を見ると、目からなみだがあふれていました。わたしは、ふしぎに思ったので、言葉をかけました。

「どうかしたの。また、Bさんたちに意地悪されたの。」

Aさんは、小さな声で、

「うん。」

と答えました。

「なかまはずれにされちゃった。」

と、悲しそうな顔で言いました。わたしは、はずかしかかったけれど、ゆう気をもつて、Aさんの手をひっぱりました。そして、Aさんといっしょに、Bさんのところまで走って行きました。その場所に着くと、Bさんの顔を見て、大きな声ではっきりと言いました。

「Bさん、Aさんがいないということ、

知っているの。」

すると、

「知らないよ。Aさんないているんだ。」

と、とぼけた顔をして言いました。続けてわたしは、

「Aさんのこと意地悪するの、ぜったいやめて。」

と言いました。言っているとき、心ぞうがどきどきして、わたしもいじめられるのではないかと、ふあんになりました。でも、言い終わったあと、心がすっきりしてうれしかったです。

このあと、Bさんは、Aさんに、「ごめんね。」

と、あやまり、Aさんもわたしに、「ありがとう。」

と言ってくれました。わたしは、とてもうれしかったです。今までは、先生やお父さん、お母さんの力をかりて言うことはできたけれど、自分でゆう気のある行動をとったことは、はじめてだったからうれしかったです。

人に意地悪をすることは、ぜったいにいけないことだと思います。意地悪をした人も意地悪をされた人もいやな気持ちになります。みんなが気持ちよくすごすことができますと楽しい学校になると思います。